

令和7年度 小平市立小平第七小学校 学校評価報告書

学校教育目標

本校及び地域社会の実態に基づき、「よく考える子」「いつも元気な子」「こころのやさしい子」の育成を目標に掲げ、その達成に努める。

目指す学校像(ビジョン)

- 【目指す学校像】 こどもも大人も笑顔と思いやりがいっぱい
 【目指す児童・生徒像】 ◎よい考えいっぱい:他者と考えを深め合える子 ◎あいさついっぱい:すすんで行動しようとする子 ◎思いやりいっぱい:相手の気持ちを考えられる子
 ◎児童を心から慈しみ理解し、よさや個性を引き出し、伸ばす教職員 ◎自らの課題を認識し、日々研鑽に努めると共に、協働して磨き合う教職員
 【目指す教員像】 ◎地域を愛し、地域や保護者と共感し、積極的に対話しながら地域や保護者からの信頼に応える教職員

前年度までの学校経営上の成果と課題

(成果)①学習者用端末を含むICT機器の活用により、学力向上につながる授業改善を行うことができた。②校内研究の「話し合い活動」に関する取組により、児童が話し合い活動を通して合意形成を行う意識を高めることができた。③保護者・地域との連携を図って教育活動を進めることができた。

(課題)①教科担任制と校内研究の取組を通して、「児童の学力」や「話し合って決める力」を更に伸ばす。②体力向上への意識を高める。③心の教育の更なる充実を図り、SNSの問題などの未然防止

| | 具体的方策 | 第1回評価 | | 指標に基づく成果・課題・対策 | 第2回評価 | | 学校関係者評価 (○成果 ●課題) | 指標に基づく成果・課題・次年度以降の対策 |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | | 取組指標 | 成果指標 | | 取組指標 | 成果指標 | | |
| 学力向上 | 「計算クエスト」等の実施や学習者用端末等ICT機器等を活用した授業を行う。また、高学年における教科担任制により、教科指導の充実を図る。 | 3 | 4 | ICT機器の活用が授業のスタンダードとなるように、今後とも研修等で活用方法を広げ、児童の確実な学習理解につなげていく。また、学校としての教科担任制の取組が全教員に伝わるよう、周知していく。 | 4 | 4 | ○主体的・対話的な学びのために、ICT機器の活用等でより分かりやすい授業が推進されており、学力調査の結果が全国及び都を上回ったことにつながったと評価できる。 ●1クラスあたりの児童数が多いため、集中していない児童の姿が散見される学年もある。 | ICT機器の活用については、教員の取組目標がほぼ100%となり、ICT機器の活用が授業のスタンダードとなっている。教科担任制については、児童アンケートの結果も良好である。次年度も、よりよい教科担任制を検討し、継続していく。 |
| | 「こだいら特活の日」の取組を生かし、年間を通して各学級で話し合い活動を行い、他者の考えを受け止め、自分の考えを表現する経験を積み重ねる。 | 4 | 4 | 話し合い活動において、友達の意見をよく聞き、受け止めることができているが、自分の考えを発表することについては課題がある。今後は、各学年で考えた手だてに基づき実践を続けていく。 | 4 | 4 | ●自分の考えを自信をもって発表できるように、各学年で考えた手だてを実践した成果がアンケート結果にも表れている。次年度も、自分たちで話し合い、自分たちで決めたことを実践していく楽しさを味わうことができるよう、取組を継続する。 | |
| 健全育成(いじめ防止) | いじめ防止アンケートの活用や児童の実態把握を日々行い、いじめ対策委員会を中心に組織的にいじめ防止の取組を推進する。また、「特別の教科 道徳」や「こだいら特活の日」を中心に、心の育成に取組む。 | 4 | 4 | いじめ防止アンケートの活用とともに、「SOSの出し方教育」等の取組が成果につながっている。今後も、道徳の学習等を通して、互いを尊重し合うことの大切さを伝えていく。 | 4 | 4 | ○定期的にいじめの調査が行われ、結果もCSに報告されている。いじめと認知すべきものは隠さずに認知し、しっかり対応されている。 ●朝の登校時にすすんで挨拶を返す児童は少数なので、あいさつ運動のさらなる推進を望む。 | 「困ったことがあったら相談できる人がいる」という設問に対して肯定的な回答をした児童の割合は、昨年度と比べて4ポイント増えている。次年度も、全ての学習活動を通して、互いを尊重し合い、思いやりあふれる児童を育てていく。 |
| | あいさつ運動を行うとともに、七小スタンダードを基に、授業等の規律の定着に取り組み。また、行事等で積極的にチャレンジする機運を醸成する。 | 4 | 4 | 日常の様々な場面で自然にあいさつができるようになってきているが、「七小スタンダード」については、教員と児童とで数値の開きがある。今後も繰り返し指導を行い、規範意識や基本的生活習慣の向上を目指していく。 | 4 | 4 | | 「学校のきまりを守って生活している」と答えた児童の割合が、1回目から5ポイント減少した。今後も、きまりを守って生活する大切さについて繰り返し指導を行い、家庭や地域とも連携し、規範意識や基本的生活習慣の向上を目指していく。 |
| 体力向上 | 休み時間の外遊びを励行する。また、マラソンチャレンジやなわとびチャレンジ等の取組を通して、運動の日常化を図る。 | 4 | 3 | 外遊びをする児童が多いが、気温が高く外遊びができない日が多くあり、数値がやや低くなっている。2学期には運動会も予定されているので、外遊びを励行し、児童の体力向上に努めていく。 | 4 | 4 | ○2学期、休み時間に担任も一緒に外遊び(長なわなども)をする様子が見られ、運動の日常化を率先しつつ、運動会や長なわ集会への機運を高めることに努力していると感じた。 ●気候の変化など影響が大きく、体力向上への阻害要因が増えていると感じる。 | 運動会や長縄集会、持久力向上月間などの行事を通して、運動や外遊びを積極的に行う児童が増えている。次年度も、日常的に児童の体力向上を図るとともに、外遊びを励行していく。 |
| | 養護教諭、栄養士、地域、企業、関係機関等と連携した健康教育・食育を充実させ、健康の保持増進について指導する。 | 3 | 3 | 保健だよりや栄養士による食に関する校内放送などを通じ、児童は、健康や食事に関する関心や意識を高めている。引き続き、学校と家庭とが連携して、児童が規則正しい生活を送ることができるよう協力していく。 | 4 | 4 | | 教員の取組指標が大幅に増加した。また、寝る時間や食生活について、保護者のアンケート結果でも数値が上がっている。今後も、校内だけでなく、地域や家庭と連携し、食育や健康教育を進め、児童の健やかな発達につなげていく。 |
| 特別支援教育 | 学期に1回、特別支援に関する研修を行い、特別支援教育の指導方法・内容への理解を深める。また、校内委員会で、コーディネーターを中心に支援や指導方針を検討し、統一した対応のための情報共有を行う。 | 4 | 4 | 特別支援教育についての保護者アンケートの肯定的回答の割合が、昨年度と比べて2ポイント減少している。児童一人一人の課題に応じた支援をどう行っているか、個人面談等で保護者に丁寧に伝えていく。 | 4 | 4 | ○はなみずき学級と各担任間での情報の共有化などの連携で、より効果的な指導につながっている様子が見られる。 ●全保護者に対して、特別支援教室への正しい認識と理解を得られるような機会を増やし、個々への対応がよりスムーズに行えるようにと考える。 | 今年度も、年間を通して校内委員会を行い、児童の支援について情報共有を行い、指導につなげた。次年度も、特別支援教室と連携しながら、児童一人一人の課題に応じた指導を継続的にを行い、成長につなげていく。 |
| | 各関係幼・保、中学校と連携し、適切な就学及び小・中学校9年間を見通した教育を行う。 | 4 | 4 | 保護者の肯定的な回答の割合が増加している。今後も、幼稚園や保育園との連携や小・中連携の取組を、学校だよりやホームページ等で保護者に周知していく。 | 4 | 4 | | 来年度は、小・中連携の取組について、七小での授業公開が予定されている。また、幼保小の連携は、市の重点課題として示されている。これまでの連携を継続し、スムーズな接続を図っていく。 |
| 地域連携 | 七小支援ネット、放課後子ども教室、CS、地域人材や関係機関などと連携し、よりよい教育活動を展開する。 | 4 | 4 | 学校の教育活動に地域や外部の力を活用することは、児童の学習意欲や理解力の向上につながっていく。2学期に、CSや支援ネットと連携した取組が続くので、学校だよりやホームページ等で保護者に周知していく。 | 4 | 4 | ○CSとの連携で、地域にあるFC東京のスタッフによるキャリア教育を行うなど、積極的に地域資源の活用を図っていた。 ●学校公開などの行事案内を確実にし、幼保中はじめ関係団体を含む、より多くの地域住民等の協力を得られる働きかけが重要と考える。 | 2学期には地域やCS、七小支援ネットと連携した行事や学習指導が多くあり、その取組が学校だよりやホームページ等で保護者に伝わっている。次年度も、連携をより深く、地域全体で児童を育てていく。 |
| 働き方改善・業務改善 | 欠席等連絡のデジタル化や会議の精選、学校行事の取り組み方の工夫により学年会を充実させ、児童と向き合う時間を確保する。 | 4 | 4 | 学校として業務改善を進めているが、個人としての取組に対する肯定的回答の割合は、昨年度と同じ時期と比べて3ポイント減少している。今後も、職場全体で知恵を出し合いながら、更なる業務改善に努めていく。 | 4 | 4 | | 個人としての取組に対する肯定的回答の割合が、1回目のアンケート結果と比べて10ポイント増加した。学校として進めている業務改善や働き方改革の取組が教職員にも伝わった結果と考えられる。次年度も、更なる業務改善に努めていく。 |